

KOREA
JAPAN

次代の学校国際交流を
目指して



授業プリント
英語で書かれている

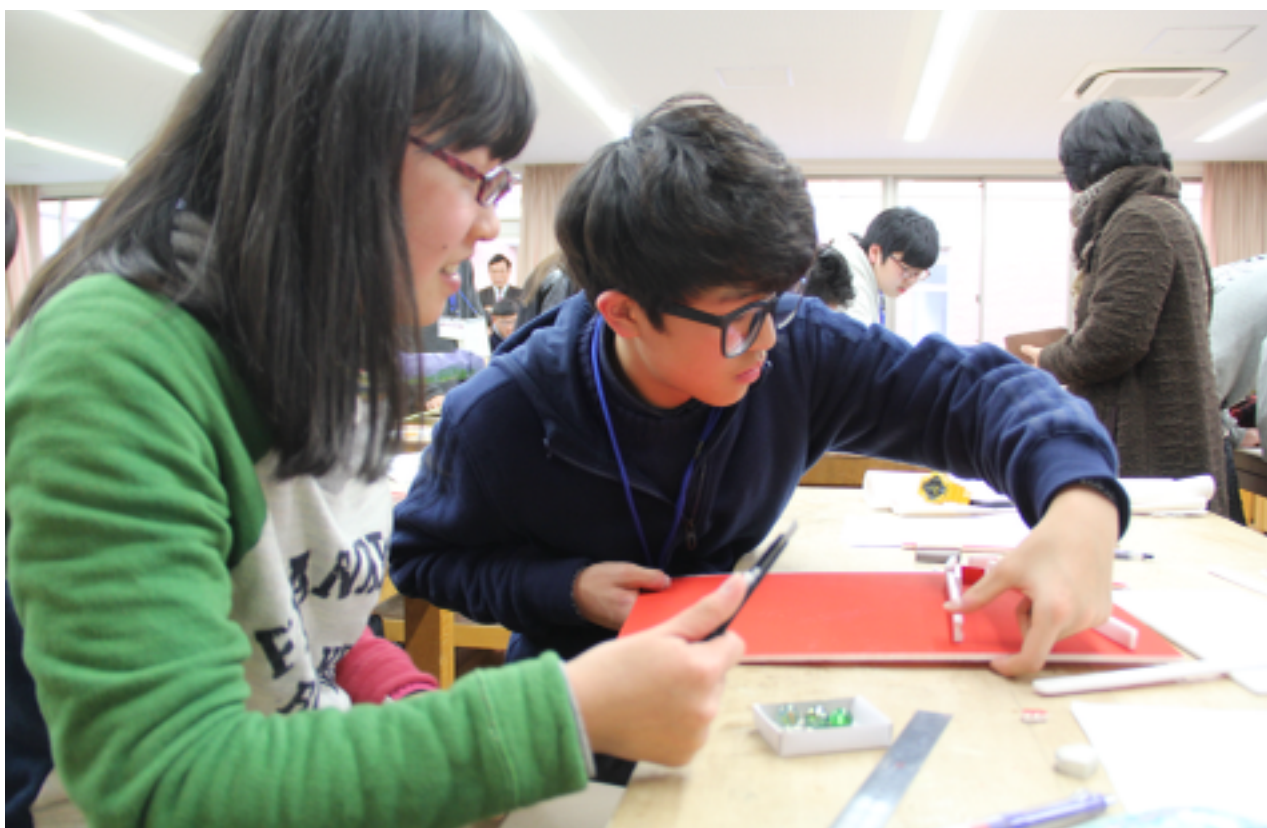


ローリングボール
仕掛けのサンプルを解説



アドバイス
先生もいっしょに考える

COLLABORATION_6



アジアで学校文化の協同開発

2014年2月24日、ソウルの名門の慶熙中学校13名と引率者5名が同志社中学校にやってこられた。韓国と日本の生徒がペアになり、先生から出されるミッションを乗り越えて行くという問題解決型の授業だ。ソウル大学附属中学のイジョンファン先生、慶熙中学のキムジンヌ先生の授業テーマは「ローリングボールコンテスト」だった。限られた材料の中で、転がり落ちるボールをいかにゆっくり落とす仕掛けをつくるかというのがミッションである。一見簡単そうであるが、コミュニケーションがうまく

未来の授業に国境はない。年齢も立場も専門分野も超えて、アイデアや学びをシェアする授業がやってきた。

とれないと作品は完成しない。緊張ぎみの生徒たちの間に先生は上手くアドバイスする。説明も授業プリントもお互いの事を考えて英語で作られている。残り時間が少なくなって焦り出してからがととも面白くなる。言葉の壁とか、話しづらいつとか、そういう遠慮はやってられないからだ。身振り手振りで、英語が流暢かどうか、間違えようがなんだろうが、相手に伝えなければ意味がない。まさに生徒たちの飛躍のチャンスがあちらこちらに転がっている。

既に現実社会では、アジアの国の会社と上手くコミュニケーションをとりながら協同で商品開発しているものづくりが一般的になっている。そんな原体験をこの授業で体験できたら...。これが、アジアものづくり授業プロジェクトの原点なのである。

ホームステイと京都ツアー

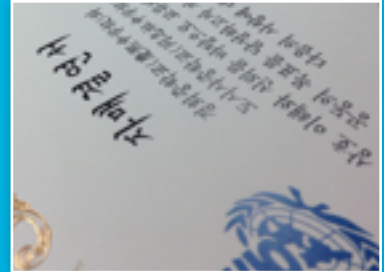
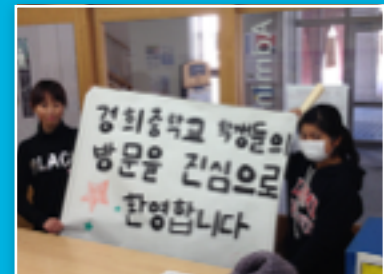
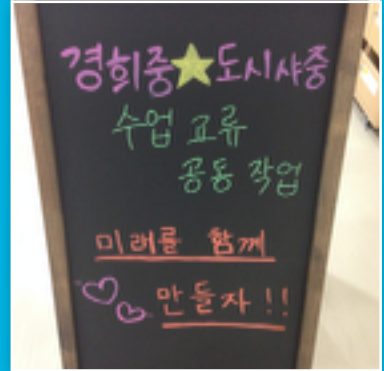
それぞれホストファミリーのお家でホームステイ。日本文化を肌で体験してもらい、お互いの文化の理解を深めて行けるプログラムでもある。

翌日は日本チームが韓国の生徒たちを京都ツアーに案内する日。午前中は二条城へ行き、京都の文化遺産を体験し、京都駅前バイキング形式の昼食をとる。バイキングは韓国の方から大好評であった。この昼食後のミッションが大変もりあがったのだ。

韓国の先生から韓国の生徒たちに指令が下る。着物を着ている日本人と写真をとってくる、親へのはがきを郵便局で発送する...、日本人なら簡単ではあるが、外国人には少々酷な指令。そこで、韓国の先生の指令内容をパートナーの日本生徒に説明し、日本人生徒の助けを得ながらミッションを達成させるというのがねらいでもある。生徒たちはかなり難しかったようで時間切れの班が続出した。しかしながらパートナーと走る、叫ぶ、走る、叫ぶの楽しい時間となった。

また韓国の生徒にとってははじめての日本授業体験（普通の授業にお邪魔する体験）は、非常に緊張したがとても嬉しかったとおっしゃっておられた。

手作りのおもてなし



ともに学習活動・文化・学術研究を交換し、交流しながらお互いの発展に努力して行きたいものです。



